

学校生活 ハイライト

関西大学の併設校ならではのゆとりある教育環境を生かし、学校行事も全生徒が一丸となって行う同校。中学校では、秋の体育大会は最大のイベントです。1年から3年までが縦割りでA〜F組の6グループに分かれ、競技・応援・デコレーションの3部門を競いました。

グループカラーのTシャツを着て入場する生徒たちの姿は、一糸乱れぬ堂々たる行進ぶり。競技はクラスや学年対抗で行われ、生徒たちは自分の出場種目に全力で挑みます。全校生徒参加の「民謡踊り」では、華やかな浴衣やハッピに身を包んだ生徒たちがグラウンドを埋め尽くし、八木節や河内音頭を踊る姿が迫力満点。「踊りは毎年3年生が1年生に教えます。全員で合わせるのが難しく、先輩たちの苦労がわかりました」と3年男子は話します。

持てる力を全力投球 全員が一致団結した体育大会

関西大学第一

▶開会式で校長の橋本定樹先生は「日頃の練習の成果を発揮し、どの競技も最後まであきらめずに挑んでほしい」とあいさつ。組旗を先頭にきちんと整列して入場する生徒たち。

1年男子と3年女子が参加した「棒引き」。自分たちの棒が引き込まれても、すぐに気持ちを切り替えて同じクラスのほかのグループを助けに行くというのが楽しいところ。「文化祭がないぶん、体育大会で学年、クラスの結束は高まります。運営する生徒会としては、みんなが楽しく大会に参加している顔を見るのがうれしいです」(3年・生徒会会長)



◀グループで色分けしたTシャツを着て、応援するスタンド席の生徒たち。パンツは1年が赤、2年が緑、3年が青で区別される。「体育大会は縦割りで行うので、練習中から上級生、下級生のつながりは深まります。」(相良先生)

男子全員による組体操では、太鼓の音に合わせて全員が機敏に動き、3年生の大技は見応えたっぷり。女子全員のマスゲーム風のダンスは、途中から3年生の躍動感あふれる創作舞踊へと移り、息の合ったフォーメーションで観客を魅了しました。全体を通して感心したのが、盛り上がる時は大いに盛り上がり、話を聴くべきときは静かに耳を傾けるという、生徒たちのけじめある態度です。競技を終えた後、ごく自然にグラウンドのゴミや紙くずを拾って退場する姿にも心が和みました。「みな先輩を見習って、当たり前前のごことをしているだけです」と生活指導部の渡辺先生がおっしゃるように、生徒の自主性に訴えかけるモラルやマナー指導は、今後先輩から後輩へと受け継がれていくことでしょう。最後までさわやかな気持ちになれた一日でした。



▲2年女子がクラス全員で跳ぶ「大縄跳び」。「せーの!」というかけ声とともに20人近い生徒がそろってジャンプ。



▲2年男子の「騎馬戦」。危険な競技なのでケガをしないように先生方がフィールド内で見守っているが、生徒たちは全力で戦いながらも行方はフェア。



▲男女混合の「リレー」はクラス対抗とグループ対抗があり、観客までも大興奮の渦に巻き込むハイライト種目。



▲みんなの「頑張り」が形になった表彰式。競技、応援、デコレーションの部から上位2組ずつが表彰。さらに、Tシャツデザイン、プログラム表紙絵、記念品デザインに選ばれた生徒もここで表彰された。



▲全生徒が参加する「民謡踊り」は、毎年3年生が1年生に振りつけを教えるという。生徒同士の絆はさらに深まる。「民謡踊りを1年生に教えるのは大変でしたが、放課後も練習し、本番までに覚えてくれたのでホッとしました」(3年・体育委員長)



▲1年女子が5人で1本の棒を持ってコースを回りながらスピードを競う「台風目」。1年生にとっては初めての体育大会。先輩たちに競技のコツを聞いて、最後まで一致団結して頑張った。



▶3年男子は、守備と攻撃に分かれて「棒倒し」を行った。危険防止のため全員がヘッドギアをつけて挑戦。一瞬で勝負がつく、荒々しい迫力満点の競技に観客席から「わあー!」という感嘆の声が響きわたった。

TOPICS

Tシャツのデザインは生徒から公募

大会で目を引いたのは生徒着用のカラフルなTシャツです。「デザインは毎年、全生徒から募集して選ばれ、ほかの学校行事でも着用します。その他の優秀作品も体育大会のプログラムのデザインなどで生かされます」教頭の相良雅文先生。今年選ばれたのは戦いに挑む龍をイメージしたKくん(3年)の作品です。「ガッツリ勝ちにいこう」をテーマにしました。ケガで競技には参加できなかったけれど、Tシャツたちが僕の代わりに出てくれました。

